

II 特別シリーズII

科学技術  
振興機構

『さくらサイエンスプラン』友情と感激

第42回

東芝国際交流財団の活動報告



齊藤亜紀  
(公益財団法人東芝国際  
交流財団プログラム・  
オフィサー)

アジアの多様性と共通課題の理解、そして未来の可能性の模索

●プログラム概要

日本とASEANの高校生が日本に一堂に会し、日本に対するASEAN諸国の学生の関心を高めるとともに、将来のアジアの展望についてともに考える機会を提供することを目的とした国際交流プログラム「Toshiba Youth Club Asia」を12月19日から26日の8日間にわたり実施。ASEANからは、タイ (Old Japanese Students' Association, Thailand)、シンガポール (Japanese University Graduates Association of Singapore)、インドネシア (Perhimpunan Alumni Dari Jepang)、マレーシア (Japan Graduates' Association of Malaysia)、ブルネイ (Brunei Association of Japan Alumni) の各国元日本国留学生会の協力のもと、高校生10名 (各国2名) とアドバイザ15名が参加した。また、日本からは高校生7名 (慶應湘南藤沢高等学校3名、早稲田高等学校1名、隠岐島前高校3名) および教員4名が参加した。

期間中、参加者たちは各国混成の4つのグループ (T、Y、C、A) に分かれ、「TYCA Asian Vision 2035」(20年後のアジアの展望) をテーマに、専門家による講義、ワークショップ、フィールドトリップ、グループディスカッションなど数々のプログラムを体験。7日目には、期間中に得た知識などをもとに、テーマに基づく成果発表をグループごとに行った。

●TYCAでの学び (交流の成果)

TYCAで学んでほしいこととして、①アジアの多様性を理解する、②社会企業家の視点を学ぶ、③地球温暖化等グローバルな課題を確認する、④科学技術と社会のイノベーションを体感する、⑤アジアの成長を考える (経済、制度設計面) を掲げ、これら5つの

プログラム	
1日目	到着、開会式
2日目	各国紹介 (自国、自分の街、ライフスタイル)、選考用論文発表 企業家の視点からみた社会的課題への取り組みに関する講義
3日目	現在直面しているグローバルな課題に関する講義 明治神宮訪問、環境問題と経済の関係について学ぶワークショップ
4日目	東芝未来科学館訪問、新幹線体験乗車、東京駅見学
5日目	東大公共政策大学院訪問 (アジアの経済成長をテーマとした大学院生との討論) 成果発表資料作成
6日目	成果発表資料作成 ("Vision" に基づくアクションプラン検討)
7日目	成果報告会、閉会式 ("Vision" 発表)
8日目	帰国

学びが得られるよう毎日のプログラムを企画した。

2日目は、多様性を理解することを目的として、自分の国、自分の街やライフスタイルについて各国ごとに発表を行った。同じアジア地域に住んでいながら、生活環境、文化、習慣などが全く異なるということを再認識し、同時に互いの国への関心が深まったようだった。

3日目は、平田仁子氏 (特定非営利活動法人気候ネットワーク理事) より、「私たちが直面しているグローバルな課題」をテーマに、COP21に実際に参加して得た最新情報などを盛り込みながら、気候変動、大気汚染、自然災害、エネルギー問題、貧困問題、テロリズムといった課題についての講義が行われた。参加者たちは、これらの課題が遠い場所ではなく身近で起こっているのだという認識を新たにしていた。

4日目は、東芝未来科学館を訪問。最新の科学技術の他、冷蔵庫や洗濯機、カラーテレ

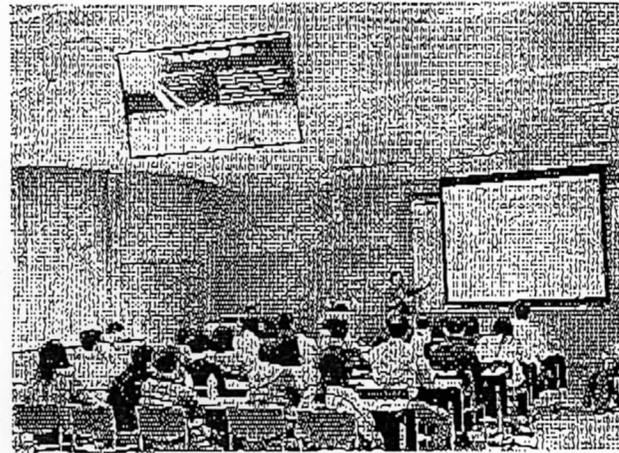
(h2) (h3)

ビ、扇風機など人々の生活を変えた日本初  
 るいは世界初の製品(1号機)を見学した。  
 参加者たちは、日本の電気・電子技術の発展  
 の歴史と、科学技術の社会に対するイノベ  
 ションについて学んだ。

5日目は、東京大学を訪問。公共政策大  
 院生5人(ASEANからの留学生4名、日  
 本人1名)より「アジアの経済成長」をテ  
 マにプレゼンテーションを行ってもらい、そ  
 の後、ディスカッションを行った。大学院生  
 らのプレゼンは高校生にはまだ難しい内容の  
 ようだったが、ASEANからの留学生とし  
 て先輩である彼らとの交流は、自分たちの将  
 来を考える良い刺激となったようであった。  
 7日目の成果報告会では、4グループごと  
 に、自分たちが考える20年後のアジアの展望  
 (「Vision」)について発表した。各グル  
 ープが掲げた「Vision」は以下の通りで、この  
 1週間で見上げてきた学びが活かされた内  
 容となっていた。

Tグループ…2035年までにアジアの青  
 年が協力、啓発する事によって持続可能で安  
 定した社会を作りあげる。  
 Yグループ…アジアの全ての国で平和的な  
 発展の元、平穏で持続可能な社会を築く。  
 Cグループ…教育による国際的な環境問題  
 への意識の向上。  
 Aグループ…環境科学に対する知識を深め  
 る事で、日本とASEANの経済を20年以内  
 に改善する。

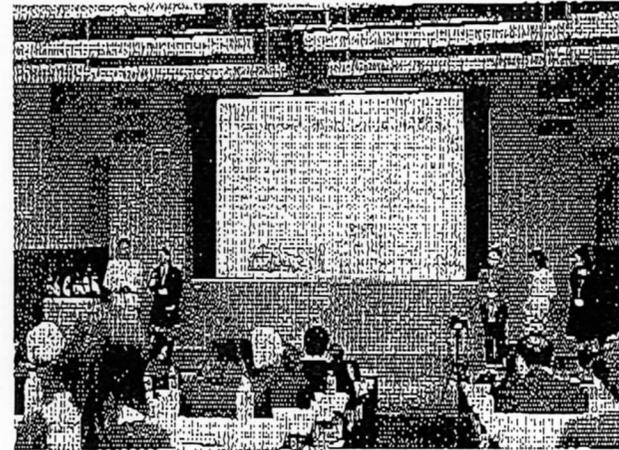
●今後の展望  
 TYCAでは、参加高校生たちに、成果発  
 表で提案した「Vision」を実現するために、  
 自分たちが身近な範囲で起こせる行動の活動  
 計画(3か月間)を作成し、実際に活動する  
 ことを事後課題として課している。活動計画  
 や活動の様子は、SNSなどで公開して参加  
 者同士で共有できるようにし、活動を更に拡  
 大したい場合には「TYCA Social Grant」と  
 いう追加支援の仕組みを用意している。これ  
 らにより、  
 TYCAを  
 1週間のプ  
 ログラムと  
 いう一過性  
 のものでは  
 なく、終了  
 後も参加者  
 たちの繋が  
 りを維持で  
 きるよう  
 している。  
 今後もT  
 YCAを通  
 じて、同じ  
 アジア地域  
 に住みなが  
 ら交流する  
 機会が少な  
 い日本とA  
 SEANの  
 高校生たち  
 に、相互理  
 解を深めな  
 がら、異な  
 る文化、価  
 値観、社会  
 問題などを  
 背景に、ア  
 ジアの将来  
 の展望につ  
 いて共に議  
 論する機会  
 を与えてい  
 きたいと考  
 えている。



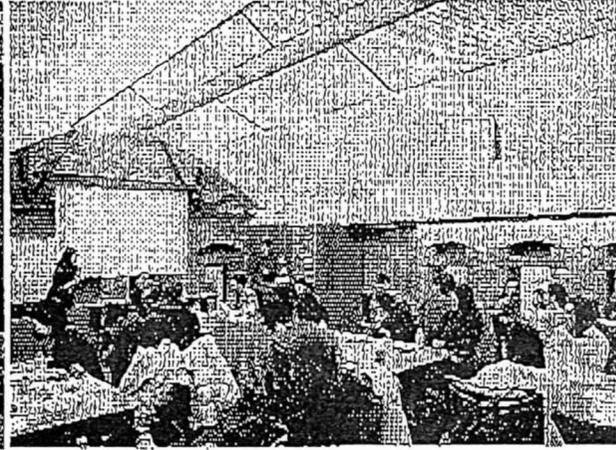
平田仁子氏による講義



自分たちの国・街・ライフスタイルについて発表



4グループごとに成果発表



東大公共政策大学院生とのディスカッション